

# 堺の「CHA の文化」の背景と展開

## — 目 次 —

	頁
1. 堺の「茶の文化」・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2. 「茶の文化」の変遷・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3. 「侘び」－創始（珠光）、中興（紹鷗）、大成（利休）・・	2
1) 「茶の心」・・・・・・・・・・・・・・・・	2
2) 「本数寄」と「侘数寄」・・・・・・・・	2
4. 千利休相伝・・・・・・・・・・・・・・・・	2
5. 「CHA の文化」への展開・・・・・・・・	3
6. 活動への取り組み・・・・・・・・	4
7. 引用文献・・・・・・・・	5
8. 資料「利休流茶道系統図」・・・・・・・・	6

平成 15 年 9 月 12 日

市民活動団体 “堺なんや衆”

前 田 秀 一

## 1. 堺の「茶の文化」

堺の「茶の文化」は、村田珠光、武野紹鷗、千利休を軸に堺の商人文化として「もてなしの心」を基本に据えて確立された。

堺の「茶の文化」は、応仁・文明の乱（1467～1476年）から逃れて来た京都の公家たちがもたらした能楽や歌道（連歌）など、さらには、僧たちによる奈良、京都の寺院文化など日本古来の文化や芸術の美意識を根底として日本的な思想の体系化されたものである。

「茶の文化」は、言葉として「冷（ひえ）」・「凍（しみ）」・「寂（さび）」・「枯（かじけ）」に代表される「寂（さび）」を基本とし、「深奥の美」、「無の美」とも言うべき美意識をこの道（「茶道」）の秩序、価値観として確立している。

堺の茶人は、相当な覚悟と責任感を持った決断力で道具の「目利き」をするほどに豪胆な人物像を持ち合わせ洗練された芸術家でありながら、現実的な商業展開も見据えた経済人（\*）であった。 \*：会合衆（36人）の内、納屋衆（倉庫所有者）10人を言う

自由都市・堺は、経済に裏付けられアジアの中核都市として世界に先進し、堺の「茶の文化」は確かな文化としてヨーロッパにも伝えられた。

封建国家への移行によって千利休は失脚に追いこまれ、江戸幕府の鎖国政策によって堺の経済力は加速的に低下し、1469年の遣明船入港以来146年間にわたって栄えてきた「自由都市・堺」は終焉し堺の「茶の文化」も衰退した。

## 2. 「茶の文化」の変遷

- ・ 中国では、お茶は腫れ物や発熱などの症状に効き目があり心身を元気付ける医薬品
- ・ 奈良、平安時代に遣唐使により中国から伝来
- ・ 894年：菅原道真 遣唐使派遣中止、途絶
- ・ 1191年：栄西禅師（臨済宗開祖）中国・宋で作法修得、茶の種、点茶器具等持ち帰る
- ・ 1192年：鎌倉幕府創立
  - 栄西禅師が3代将軍源実朝にお茶を謙譲してから武家に喫茶が普及
- ・ 1423～1502年：村田珠光 奈良・称名寺の僧。後に、大徳寺・一休宗純の弟子。「侘び茶」の開祖
- ・ 1467～1478年：応仁・文明の乱（京都）公家、僧が戦火を逃れて堺に疎開（公家、寺院文化流入）
- ・ 1502～1555年：武野紹鷗 納屋衆。堺流の祖。北向道陳（書院、台子の茶事）の紹介で利休が師事
- ・ 1522～1591年：千利休 納屋衆（魚屋）。与四郎⇒宋易（大徳寺命名：19歳）⇒千利休（勅賜：64歳）
- ・ 1573～1600年：安土桃山時代
  - 織田信長「天下一」（才能のあるものはその力を存分に発揮せよ！）を唱える
  - 実力主義の「堺商人」台頭
- ・ 1600～1868年：江戸時代
  - 鎖国（経済封鎖）
  - 儒教思想を根本とした封建的身分制度（士農工商：商人の地位低下）台頭
  - 「家元制度」という茶人の職能制度確立（実力主義から形式主義へ移行）
- ・ 1868～1912年：明治時代
  - 武家社会の崩壊、文明開化（賃金報酬減少、茶道ほか伝統文化停滞）。立礼式。
  - 1898年（明治31年）大日本茶道学会創設（茶道本来無流儀、秘伝開放、人格形成）
- ・ 2001年～：現代
  - 格式ばりの改革、点前の簡素化、家元制度再確立、精神文化としての見直し

### 3. 「侘び」 - 創始：珠光、中興：紹鷗、大成：利休

#### 1) 「茶の心」

##### (1) 村田珠光

- ・「茶とは、遊に非ず、芸に非ず、一味清浄、法善禅悦の境地にあり」（足利義政への申言）
- ・「藁屋に名馬をつなぎたるがよし」

藁葺きの小座敷に高価な唐物の道具を用いて茶をたてたる趣向（「侘び」の風体を正しく表現するのは、外観のものではなく客に対する亭主の心づくしである）

##### (2) 武野紹鷗

- ・「見わたせば花も紅葉もなかりけり 浦のとまやの秋の夕暮れ」 藤原定家  
「侘び」とは、「正真（正直に真心を持って）に慎み深くおごらぬさま」を言う。

##### (3) 千利休

- ・「花をのみ待つらむ人に山里の雪間の草の春を見せばや」  
雪間の所々にいかにも青やかなる草がほつほつと二葉も三葉も萌え出たる如く、力を加えずして真なるところのある道理、それが「侘び」である。  
静かさの中に新しい活動力を潜めたものである。
- ・「和敬清寂」：互いに心を開き、敬いあい、心の中を清らかにどんな時にも動じない心
- ・「一期一会」：人と人とが会うその時、その場を大切にし、信頼ある人間関係を築く心
- ・「一座建立」：亭主と客人との相互の心遣いが一心一体となって結ばれる心。

#### 2) 「本数寄」と「侘数寄」

##### (1) 村田珠光

- ・当時の派手な茶の湯に異を唱え、侘びたる心境を説いた。
- ・四畳半の茶室を創始し、座敷飾りを著しく簡素化。

##### (2) 武野紹鷗

- ・思想的には「侘び」、「寂び」とうたいながら現実主義的に名物と呼ばれ、価値が認められた高価な道具や場を利用した「本数寄」を受け入れた。現代の「かたち」の原型を創出。
- ・日常の格も認めつつ、少し控えめにさせて、安らぎと和らぎを体験できる場としての茶室空間を創出。 例、庭に面した開放感のある書院造の格式の高い座敷、簡素な料理

##### (3) 千利休

- ・道具、茶室、料理など徹底して「侘び」（「侘数寄」）の思想を貫いた。
- ・貴賤の別を超えて超俗の世界、封鎖空間。
- ・宗教的な平等間と中世・堺における自由経済競争における平等感の思想を具体化。  
例、四周を壁で囲い、小さな入り口、小さな開口部、格子、極小のスペース（二畳敷）、最小限の料理（一汁一采「懐石料理」）⇒料理に代えて和菓子とする。

### 4. 千利休相伝

#### ・「師弟相伝」

千利休は、実力主義者であって、「父子相伝」と言うよりは「師弟相伝」を認めた。

例、長男の道安よりも、古田織部、山上宗二を評価

#### ・「茶人に書はない」

財力を手にした堺商人が、なにか習い事を始める時には、文章力や学問を必要とする能楽や和歌などに比べて、お茶は作法を重視する習い事であるため取り付きやすかった。

元来、秘伝口伝のお茶の心得を千利休を中心に武野紹鷗も含めその時代の茶の思想を文章化した『山上宗二記』は唯一の貴重な書物である。

・「**創意工夫**」 — 古田織部

古田織部は、戦国時代の武将でもあったが、千利休が徹底した「侘び」、「寂び」の世界を再解釈して織部独自の美意識でお茶の世界を構築した。

独特な創意ではあったが、お茶の本質の「もてなす心」として反するものではなく、織部の新しい工夫に挑む姿勢を千利休は評価した。

例、「お客を招く為にいかにか？」

⇒あまりにも「侘び」すぎる利休風の路地を織部風に華やかなものにした。

「お客に狭いと感じさせるのは“もてなす心”に反する」

⇒茶室を広げにし、窓も多めに取り込み明るい空間を創出した。

・「**利休7哲**」

- ・別紙（6頁）「利休流茶道系統図」参照。

伝統を守る姿勢と身分制度の中、町人を高い位置づけに置かないようにという封建的な考え方に基づいて後の世の人が決めた呼称。

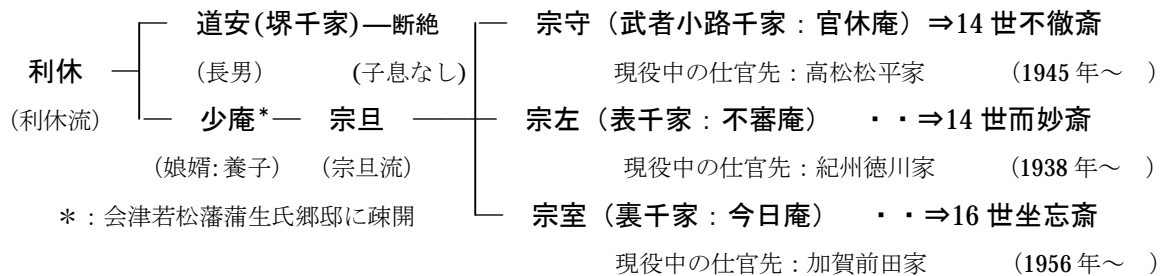
例、町人であった山上宗二は除外された

・「**きれい寂び**」

- ・利休、織部と発展してきた茶室空間を、建築に造詣の深かった小堀遠州が書院と合わせて考え、明るく、開放的でありながら「寂び」としての空間を持っている「きれい寂び」と呼ばれる美的空間を創出した。

・「**3千家**」 — 「表」、「裏」、「武者小路」

- ・千利休の長男“道安”は、利休が自害後身を寄せた飛騨高山の大名・金森可重のもとから堺の利休屋敷に戻ることを許されたが、子息が無く屋敷は没収され「堺千家」は終わった。
- ・千利休の娘(お亀)婿“少庵”（養子：後妻宗恩の連れ子）の長男千宗旦は、乞食宗旦の異名どおりに「侘び」に徹し、自らは仕官せず3人の息子の仕官に奔走し、隠退後は、その後に興した茶室を子息に譲り、3千家の流派として庶民の間に広まり今日につながっている。



・「**大名茶**」

- ・武家社会の中では、「表」、「裏」千家よりは、むしろ、遠州流（小堀遠州）や石州流（片桐石州：利休の長男“道安”の孫弟子）が盛んになったが、石州流のような「大名茶」は、それぞれ藩の城下を一単位とし、藩を超えて拡大することがないため、武家社会の終焉とともに衰退した。

5. 「CHAの文化」の展開

今日に見られる「茶の文化」は、1191年、栄西禅師が中国から持ち帰った当初重宝した「菓効」や「茶禅一味」の様な宗教的なものではなく日本的な美意識や倫理観を基本とする独自の

文化として築き上げられた。

その原点は、16世紀の頃、アジア経済の中核をなし、世界的にも注目された自由・自治都市「堺」にあって、有数の商人(経済人)でありながら、鋭い美意識と哲学で人を心から「もてなし」ことを理念として、作法、点前などソフトの面に加え、道具、料理、露地(茶庭)、数寄などハードの面に至るまで創意工夫を尽くし、独自の「侘び」の空間を創出した武野紹鷗や千利休にある。

そこには、流派と呼ばれるものは無く、形式も格式も重んじることなく、「もてなしの心」を理念とした創意工夫を尊び、茶人個々の人となりに重きを置く風習があった。また、茶人達は、商業の面でも進取の気概にあふれ、堺の“まち”の興隆に尽くした。

堺市博物館館長角山 榮先生は、「茶の文化」の本質は、「茶」という飲み物を媒介として「ふれあい」**Communication**と「もてなし」**Hospitality**の「人間関係の形成」**Association**にあると考えられ、「CHAの文化」を提唱された。21世紀は、諸民族との共生、諸文明共存の時代であり、平和の維持と平和の心は「茶=CHA」の心であり、「茶の文化」の理念に通じるとされている。

文化として、芸術として、道として、哲学として、宗教に根ざした道德観として、今日まで多くのものが「茶の文化」として確立されてきた。

21世紀にあっては、既成の価値観を見直し、再評価し、創意工夫して、「CHAの文化」が、その理念を踏まえて「文化立都・堺」に相応しい「堺ブランド」として定着することを目指したい。

## 6. 活動への取り組み

### 1) 「ふれあい」: Communication

「堺県横断ウォーク・クラリー」(「さいかい・ウォーク」活動)

文化庁「関西元気文化圏」参加事業

<http://bunka-ryoku.goo.ne.jp/Details.asp?EID=1602>

- ・平成16年1月24日(土) 春日大社⇒ならまち⇒平城京跡
- ・平成16年3月20日(土) 大神神社⇒仏教伝来の碑⇒藤原京跡
- ・平成16年5月15日(土) 長尾神社⇒竹内峠(竹内街道)⇒聖徳太子廟叡福寺
- ・平成16年7月31日(土) 金岡神社⇒仁徳陵⇒南宗寺⇒「堺大魚夜市」会場



### 2) 「もてなし」: Hospitality

「茶道」の体験(「もてなしの心」の実体験)

- ・各流派の茶会へ参加、「もてなしの心」についてお話を聞く

「利休のふるさと堺大茶会」(平成15年10月18日、19日)、三千家めぐり、煎茶、中国茶、紅茶

「料理とお茶」

- ・平成15年9月28日(日) 14時~15時30分 場所: 堺市博物館 主催: 堺市・文化担当  
「料理と茶の湯」講師: 「本吉兆」社長 湯木潤治氏

### 3) 「人間関係の形成」: Association

「公開文化セミナー」(「堺・“まち”文化トーク」活動)

- ・講演: 「堺・大坂と大和の往来 — 徳川、明治初期の竹内街道の変遷」

花園大学名誉教授 福島雅蔵先生(元三国ヶ丘高校教諭)

- ・「世界のお茶サロン:」堺市在住、在学留学生との交流

(インド、中国、モンゴル、ミャンマー、ベトナム、タイ、日本)

## 各種団体との交流

### 「堺大魚夜市」参加

堺大魚夜市実行委員会、(社)堺高石青年会議所、堺市教育委員会、(社)堺観光コンベンション協会、堺観光ボランティア協会、堺・とれとれ市場、NPO法人ゴダイとの協働

## 7. 引用文献

- 1) 青井弘之：論文「堺の茶=CHA　－もてなしの茶の原点を考えいまに生かす－」  
平成 15 年 8 月 22 日（“堺なんや衆” メーリングリスト投稿）
- 2) 豊田 武：『堺－商人の進行と都市の自由』（至文堂、昭和 41 年）
- 3) 桑田忠親：『千利休－その生涯と芸術的業績』中公新書 610（中央公論、昭和 56 年）
- 4) 角山 榮：『堺－海の都市文明』（PHP 研究所、2000 年）
- 5) 大阪府立三国丘高校史学部：『河泉』第 15 号（大阪府立三国丘高校史学部、昭和 49 年）
- 6) 三浦綾子：『千利休とその妻たち』上巻、下巻、新潮文庫み-8-18（新潮社、昭和 63 年初版）
- 7) 市民活動団体“堺なんや衆”：「日本財団」助成金申請事業計画  
「21 世紀！堺の“まち”文化の再発見と情報発信による「CHA の文化」の実践」

以上

### 資料「利休流茶道系統図<sup>3)</sup>」

